

平成18年 1 月 31 日
事 務 連 絡

各地方整備局担当官
各都道府県建設業担当官 殿

国土交通省総合政策局建設業課

経営事項審査の改正等に係る事務取扱いについて

標記の件については、平成17年12月16日付けで建設業法施行規則及びこれに関連する告示・通知の改正を行ったところであるが（平成18年5月1日施行）、詳細な事務取扱いについて連絡するので、遺漏無いよう取り扱われたい。

1 X1評点(完成工事高)の評点テーブルの修正について

(1) 概要

近年の建設投資の減少等に対応し、いわゆるX1評点テーブルを別紙1の通り改正する。

(2) 再審査の取扱いについて

① 再審査を行う期間

X1評点テーブルの見直しに係る再審査の申立期間は、当該改正の日（平成18年5月1日）から120日以内（当該改正に係る事項についての再審査に限る。）とする。

再審査の対象となる経営事項審査の結果は、再審査を受けようとする日の1年7ヶ月前の日以降を審査基準日とするものとする。

② 提出書類

申請者が再審査を申し立てるにあたっては、以下の書類を提出するものとする。

イ 経営事項審査申請書（建設業法施行規則別記様式第25号の11、但し

X 1 評点テーブル見直しに係る再審査のみであれば別紙1～3は不要)

ロ 当初の経営事項審査申請書の写し及び経営事項審査結果通知書（以下「旧結果通知書」という。）の写し

③ 申請書記載の留意事項

再審査における経営事項審査申請書の記載については、以下の点に留意すること。

イ 「申請者」の欄には、主たる営業所の所在地等を記載する等、通常の経営事項審査の申請書の記載方法と同様とすること。

ロ 「審査結果の通知番号」の欄には、旧結果通知書の「行政庁記入欄」に記載された番号を記載すること。

ハ 「審査結果の通知の年月日」の欄には、旧結果通知書の通知年月日を記載すること。

ニ 「申請等の区分」はコード4もしくはコード5を記載すること。

ホ 「再審査を求める事項」欄に「完工高」と記載し、「再審査を求める理由」欄に「制度改正のため」と記載すること。

④ 旧結果通知書の取扱い

再審査による経営事項審査の結果通知書を受けた場合、発注者が当面、競争参加資格の確認等に当たって旧結果通知書を活用することも想定されるので、その回収は行わない。

2 防災協定締結業者への加点について

(1) 概要

国の機関や地方公共団体と防災協定を締結する建設業者は、災害時の24時間待機など自らの負担も伴いながら防災活動を行い、社会的貢献を果たしている。こうした建設業者の社会貢献活動を評価すべく、W項目の中に新たにW5項目を設け、当該項目において、国、特殊法人等（公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成十二年法律第百二十七号）第二条第一項に規定する特殊法人等をいう。）又は地方公共団体と、災害時における建設業者の防災活動について定めた防災協定を締結している建設業者を加点評価する。

(2) 防災協定の確認方法について

経営事項審査申請書（建設業法施行規則別記様式第25号の11）の別紙3の項番52に防災協定加入の有無を記載させ、確認書類として以下の書類を提出させる。改正後のW項目の評点テーブルは別紙2の通りとする。

イ 国、特殊法人等又は地方公共団体と締結している防災協定の写し

ロ 社団法人等の団体が国、特殊法人等又は地方公共団体との間に防災協定を締結している場合は、当該団体に加入していることを証する書類及び申請者が防災活動に一定の役割を果たすことが確認できる書類（当該団体の活動計画書や証明書等）

なお、申請された防災協定が加対象となるか否か等の詳細については、別紙3のQ&Aを参照されたい。

(3) 再審査の取扱いについて

① 再審査を行う期間

X1評点テーブルの修正と同様に取り扱い、審査基準日時点で防災協定を締結していた場合のみ加評価する。

なお、防災協定の締結の有無について再審査を行った場合は、X1についても自動的に新評点テーブルで再審査されることになるので、留意されたい。

② 提出書類

上記1(2)②において示したX1評点テーブルの修正における提出書類に加えて、上記2(2)において示した書類を提出するものとする。

③ 申請書記載の留意事項

X1評点テーブル修正における留意事項に加えて、「再審査を求める事項」欄に「防災協定の有無」と記載し、「再審査を求める理由」欄に「制度改正のため」と記載すること。

④ その他

旧結果通知書の取扱いはX1評点テーブル見直しの場合と同様。

3 加点対象となる技術者の追加について

(1) 概要

電気通信工事に係る営業所専任技術者になり得る者として、平成18年4月1日以降新たに「電気通信事業法（昭和59年法律第86号）による電気通信主任技術者資格者証の交付を受けた者であって、5年以上の実務経験を有するもの」が追加される予定であることを受けて、経審のZ指標でも当該技術者を加点対象に含める。

(2) 留意事項

今回追加される資格は、営業所専任技術者の要件としては平成18年3月31日以前は無効であるため、審査基準日が平成18年3月31日以前の場合は加点対象とならない。従って、事実上再審査の対象外となる。

4 加点対象となる資格の位置付けの改正について

(1) 概要

Zの加点対象となっている地すべり防止工事士及び一級計装士、Wの加点対象となっている建設業経理事務士について、平成14年の閣議決定「公益法人に対する行政の関与の在り方の改革実施計画」に基づき、平成18年4月1日以降これらに対応する資格試験を国土交通大臣の登録制度として実施することとする。

(2) 取扱いについて

登録制度化に伴い資格の名称の変更等があるものの、経審上の基本的な取扱いについては従来と変化無し。

- ・平成18年度以降の登録地すべり防止工事試験、登録計装試験、登録経理試験の合格者を加点対象とする。
- ・平成17年度までの地すべり工事防止工事士、一級計装士、建設業経理事務士についても加点が継続される。

なお、「「経営事項審査の事務取扱いについて」の一部改正について」
(平成17年12月16日国総建第255号)の記載に関して、二級登録経
理試験の取扱いについての照会が一部からあったが、二級登録経
理試験の合格者及び従来の二級建設業経理事務士についても加
点対象となることを申し添える。

5. 改正に伴うシステム上の注意点

上記1～3の改正は平成18年5月1日施行であるが、当該改正
に対応したC I I Cのシステムリリースは平成18年5月15日となる。
新システム導入にあたっては旧システムを廃棄することとなるため、
例えば4月下旬に経審の申請を受け付けた場合、5月15日以降は
旧基準での結果通知書を出力できなくなる。

そのため、

- ① 経審の申請の受付にあたっては、4月以降特に留意すること
(4月以降の申請を留保する等の対応が必要になると思われる。)
- ② 5月15日以降に旧基準での評点による算定結果が必要な場
合は、手書きにて行うこと。ただし、手書きによる修正を行っ
た場合は、インターネット公表に修正されたデータが反映され
ないこととなる。

— [問い合わせ先] —

国土交通省総合政策局建設業課

課長補佐 平 田 (内線24-753)

許可係長 折 坂 (内線24-718)

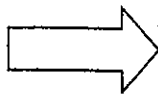
経営指導係長 青 木 (内線24-734)

現行及び改正後のX1評点の評点表

許可を受けた建設業に係る 建設工事の種類別年間平均 完成工事高(百万円)	旧X1評点	新X1評点
200,000 以上	2,565	2,616
150,000 以上 200,000 未満	121 X1 / 50,000,000 + 2,081	123 X1 / 50,000,000 + 2,124
120,000 以上 150,000 未満	110 X1 / 30,000,000 + 1,894	112 X1 / 30,000,000 + 1,933
100,000 以上 120,000 未満	110 X1 / 20,000,000 + 1,674	113 X1 / 20,000,000 + 1,703
80,000 以上 100,000 未満	110 X1 / 20,000,000 + 1,674	112 X1 / 20,000,000 + 1,708
60,000 以上 80,000 未満	97 X1 / 20,000,000 + 1,726	99 X1 / 20,000,000 + 1,760
50,000 以上 60,000 未満	85 X1 / 10,000,000 + 1,507	86 X1 / 10,000,000 + 1,541
40,000 以上 50,000 未満	86 X1 / 10,000,000 + 1,502	88 X1 / 10,000,000 + 1,531
30,000 以上 40,000 未満	85 X1 / 10,000,000 + 1,506	87 X1 / 10,000,000 + 1,535
25,000 以上 30,000 未満	73 X1 / 5,000,000 + 1,323	74 X1 / 5,000,000 + 1,352
20,000 以上 25,000 未満	72 X1 / 5,000,000 + 1,328	74 X1 / 5,000,000 + 1,352
15,000 以上 20,000 未満	74 X1 / 5,000,000 + 1,320	75 X1 / 5,000,000 + 1,348
12,000 以上 15,000 未満	61 X1 / 3,000,000 + 1,237	63 X1 / 3,000,000 + 1,258
10,000 以上 12,000 未満	60 X1 / 2,000,000 + 1,121	61 X1 / 2,000,000 + 1,144
8,000 以上 10,000 未満	62 X1 / 2,000,000 + 1,111	63 X1 / 2,000,000 + 1,134
6,000 以上 8,000 未満	48 X1 / 2,000,000 + 1,167	49 X1 / 2,000,000 + 1,190
5,000 以上 6,000 未満	49 X1 / 1,000,000 + 1,017	50 X1 / 1,000,000 + 1,037
4,000 以上 5,000 未満	49 X1 / 1,000,000 + 1,017	50 X1 / 1,000,000 + 1,037
3,000 以上 4,000 未満	48 X1 / 1,000,000 + 1,021	49 X1 / 1,000,000 + 1,041
2,500 以上 3,000 未満	49 X1 / 500,000 + 871	50 X1 / 500,000 + 888
2,000 以上 2,500 未満	37 X1 / 500,000 + 931	38 X1 / 500,000 + 948
1,500 以上 2,000 未満	36 X1 / 500,000 + 935	36 X1 / 500,000 + 956
1,200 以上 1,500 未満	36 X1 / 300,000 + 863	37 X1 / 300,000 + 879
1,000 以上 1,200 未満	37 X1 / 200,000 + 785	38 X1 / 200,000 + 799
800 以上 1,000 未満	37 X1 / 200,000 + 785	38 X1 / 200,000 + 799
600 以上 800 未満	24 X1 / 200,000 + 837	24 X1 / 200,000 + 855
500 以上 600 未満	24 X1 / 100,000 + 765	25 X1 / 100,000 + 777
400 以上 500 未満	25 X1 / 100,000 + 760	25 X1 / 100,000 + 777
300 以上 400 未満	25 X1 / 100,000 + 760	26 X1 / 100,000 + 773
250 以上 300 未満	24 X1 / 50,000 + 691	24 X1 / 50,000 + 707
200 以上 250 未満	24 X1 / 50,000 + 691	25 X1 / 50,000 + 702
150 以上 200 未満	24 X1 / 50,000 + 691	24 X1 / 50,000 + 706
120 以上 150 未満	24 X1 / 30,000 + 643	25 X1 / 30,000 + 653
100 以上 120 未満	25 X1 / 20,000 + 589	25 X1 / 20,000 + 603
80 以上 100 未満	24 X1 / 20,000 + 594	25 X1 / 20,000 + 603
60 以上 80 未満	13 X1 / 20,000 + 638	13 X1 / 20,000 + 651
50 以上 60 未満	12 X1 / 10,000 + 605	12 X1 / 10,000 + 618
40 以上 50 未満	12 X1 / 10,000 + 605	12 X1 / 10,000 + 618
30 以上 40 未満	13 X1 / 10,000 + 601	14 X1 / 10,000 + 610
25 以上 30 未満	11 X1 / 5,000 + 574	11 X1 / 5,000 + 586
20 以上 25 未満	12 X1 / 5,000 + 569	12 X1 / 5,000 + 581
15 以上 20 未満	12 X1 / 5,000 + 569	12 X1 / 5,000 + 581
12 以上 15 未満	13 X1 / 3,000 + 540	14 X1 / 3,000 + 547
10 以上 12 未満	12 X1 / 2,000 + 520	12 X1 / 2,000 + 531
10 未満	11 X1 / 10,000 + 569	11 X1 / 10,000 + 580

現行及び改正後のW評点の評点表

その他の審査項目（社会性等）		点数
W ₁	労働福祉の状況	0～30点
W ₂	工事の安全成績	0～30点
W ₃	営業年数	0～30点
W ₄	建設業経理事務士等の数	0～10点



その他の審査項目（社会性等）		点数
W ₁	労働福祉の状況	0～30点
W ₂	工事の安全成績	0～30点
W ₃	営業年数	0～30点
W ₄	公認会計士等の数	0～10点
W ₅	防災活動への貢献の状況	0～3点

W ₀	W	0.15W
100	967	145.05
99	960	144
98	953	142.95
97	947	142.05
96	940	141
95	933	139.95
94	927	139.05
93	920	138
92	913	136.95
91	907	136.05
90	900	135
10	367	55.05
9	360	54
8	353	52.95
7	347	52.05
6	340	51
5	333	49.95
4	327	49.05
3	320	48
2	313	46.95
1	307	46.05
0	0	0



W ₀	W	0.15W
103	987	148.05
102	980	147
101	973	145.95
100	967	145.05
99	960	144
98	953	142.95
97	947	142.05
96	940	141
95	933	139.95
94	927	139.05
93	920	138
92	913	136.95
91	907	136.05
90	900	135
10	367	55.05
9	360	54
8	353	52.95
7	347	52.05
6	340	51
5	333	49.95
4	327	49.05
3	320	48
2	313	46.95
1	307	46.05
0	0	0

防災協定を締結する建設業者への加点措置に関するQ&A

No.	Q	A
1	加点の対象を防災協定締結企業に限定するのは何故か。協定を締結していなくても、実際に防災活動に貢献した企業は加点すべきではないか。	経営事項審査はその性質上、全国一律の客観的な基準に基づいて評価する必要があるため、防災協定締結の有無を加点の要件とした。
2	現在資格審査の主観的評価事項で防災活動への貢献状況を加点対象としているが、今回防災協定締結の有無が経審の加点対象となることに伴い、主観的評価事項の見直しを行う必要があるか。	今回の改正は、発注者が防災活動への貢献活動を主観的事項で評価することについて何ら妨げるものではなく、加点措置の継続に影響を及ぼすものではない。
3	防災協定を締結する両者のうち、行政機関側の「特殊法人等」の範囲について、「公共工事の入札及び契約の適正化に関する法律（以下、「入契法」という。）第2条第1項に規定する特殊法人等」に限定しているのは何故か。	「入契法第2条第1項に規定する特殊法人等」は、国の出資が2分の1以上又は事業運営費の主たる財源を国から得ていること等の要件を満たしており、行政機関に準じると見なされることによる。また、入契法適用対象外の法人は入札制度の透明性が必ずしも確保されておらず、締結する防災協定を一律に経審の加点対象とするのは馴染まないと考えられる。
4	加点対象となる防災協定は、具体的に災害時のどのような活動について定めてある必要があるのか。	災害時に建設業者に求められる役割は地域によってマチマチであると思われるため、防災協定に定める具体的な活動内容についての制限は設けない（建設工事に該当しない活動でもかまわない）。災害時の建設業者の活動義務について定めた協定であれば、基本的に加点対象となる。
5	災害時の実際の活動について、有償で行われる場合でも加点対象となるのか。	防災協定を締結する建設業者は、実際に出勤しない場合でも体制を整えるなど、大きな負担を伴いながら地域に貢献しており、協定に基づいて行った活動について対価を得たとしても、その社会貢献度は高く評価すべきもの。従って、左記のケースでも加点対象とする。ただし、防災協定そのものが事実上の請負契約や期間委託契約と見なされるような場合は除く。
6	上記5の回答で、加点対象とならない「防災協定そのものが事実上の請負契約や期間委託契約と見なされるような場合」とは、具体的にどのようなケースがあるか。	例えば協定において単価を定めているような場合は、期間委託契約の性質が強く建設業の営業そのものであるため、原則的に加点対象外とする。ただし、事務効率化等のため事前に単価を定めている場合でその単価が明らかに実費相当であるような場合は加点対象とする。また、協定締結者を入札で決定しているような場合等も加点対象外とする。
7	複数の防災協定を締結する建設業者への加点はどうするのか。	防災協定を締結する建設業者に対しW5項目で一律3点の加点を行うこととし、複数の防災協定を締結している場合でも重複加点は行わない。
8	社団法人等の団体が防災協定を締結する場合の定めがあるが、加点対象となる「団体」の範囲について、要件はあるのか。	加点対象となる「団体」の要件について、特に制限は設けない。法人格も必ずしも必要としない。
9	申請者が加入する団体が防災協定を締結している場合の具体的な取扱いはどうすればよいか。	当該団体の会員証や証明書等で申請者が団体の会員であることを確認するとともに、団体の活動計画書や証明書等によって申請者が一定の役割を負っていることが確認できる場合については、加点対象とする。
10	今回の改正により、建設業者や業界団体から防災協定締結の申し出が増加することが予想されるが、どのように対応すべきか。	防災協定の締結については、従来通り、各行政庁が防災対策としての実効性を基準として判断していくべきものであり、今回の改正は防災協定締結の基準そのものに影響を与えるものではない。